

仏教および真宗の人間像・人間観に関する基礎的研究

富島信海・遠山信証

はじめに

戦後80年を迎えた2025年、浄土真宗本願寺派は、「平和に関する論点整理（戦後80年版）」（『宗報』2025年3月号）を公表し、7つの平和貢献策を提示した。そのうち、④「人間像の点検～互いの「いのち」を尊重し、支え合う～」では、「仏教や真宗の教えに基づいて人間とは何者であるかを理解し、ともに「いのち」を尊重できる社会を実現する」ことを目標として掲げ、その具体策として、真宗の世界観や人間観に関する研究、ジェンダー問題など、現代の諸課題に即した研究および実践を挙げている。

そこで本研究では、仏教および真宗の人間像・人間観として、近代以降に形成されてきた人間の規範（モデル）や教化団体の動向、教理・思想としての人間理解に関する研究資料を収集・整理するとともに、主要な研究内容と研究動向を概観することを目的とする。

まず、「1. 仏教および真宗の人間像に関する研究」では、仏教婦人会・仏教青年会・仏教少年会などの戦前・戦時下の教化団体による奉公活動が、1996（平成8）年に公表された「戦後問題」検討委員会答申において、教団の具体的戦争協力および教団の今日的課題の一つとして取り上げられていることを確認した。続いて、仏教婦人・女性、仏教青年、仏教少年・少女に関する主要な研究を取り上げてその内容を概観し、あわせて関連する研究書籍・論文の目録を掲載した。

次に、「2. 仏教および真宗の人間観に関する研究」では、1960年代以降、「人間観」を主題とする学術雑誌や論文集などを通して、仏教および真宗の人間観に関する研究成果が多様に蓄積されてきたことを確認した。そのうえで、戦後50（1995）年以降の仏教および真宗の人間観に関する主要な研究を取り上げてその内容を概観し、あわせて同時期の関連する研究書籍・論文の目録を掲載した。

なお、それぞれの研究に関する文献目録（2025年12月時点）の作成にあたっては、国立国会図書館サーチ（NDL サーチ、<https://ndlsearch.ndl.go.jp/>）、CiNii Research（国立情報学研究所、<https://cir.nii.ac.jp/>）、INBUDS（日本印度学仏教学会データベースセンター・インド学仏教学論文データベース、<https://www.inbuds.net/>）などを活用し、おおむね戦後50（1995）年以降の研究書籍・論文を中心に掲載した。各項目の構成においては、研究史の展開や論点が見渡せるよう、キーワードを設定し、網羅的かつ体系的な整理に努めた。

1. 仏教および真宗の人間像に関する研究

1995（平成7）年に本願寺で修行された終戦50周年全戦没者総追悼法要をうけて、同年に設置された「戦後問題」検討委員会は、翌1996（平成8）年に「戦後問題」検討委員会答申」を公表した。「答申」では、本願寺教団が戦争に協力した実態（10項目）や、今日的課題（8項目）が明らかにされ、そのなか、戦時の教化団体による奉公活動とその課題について、次のように記されている。

【教団の具体的戦争協力について】

第4に、仏教婦人会・仏教青年会・仏教少年会など教化団体が、戦時奉公活動を担った。

【教団の今日的課題について】

第5に、仏教婦人会・仏教青年会などの活動内容、そこでの「国体」護持・奉公を尊んだ「画一的な人間像」が、敗戦後においても継承されているのかどうかを検証し、現代の平和と人権に関わる多様な女性・青年・少年少女などの課題を関係機関が協議すべきである。

（「戦後問題」検討委員会答申『ブックレット基幹運動No.10 平和シリーズ2 写真に見る戦争と私たちの教団～平和を願って～』54～57頁、2000年、本願寺出版社）

近年、明治期以降における仏教・真宗関係の「婦人」・「女性」・「青年」・「少年」・「少女」に関する多くの資料や論考が発表されている。本節では、上記の記述に着目し、近代以降の「婦人」・「女性」・「青年」・「少年」・「少女」に関わる組織や教化団体の動向を知ることのできる研究資料を収集・整理した。

まず、次の五書をてがかりに、研究の現況を概観する。

- ①大谷栄一・菊地暁・永岡崇（編著）『日本宗教史のキーワード—近代主義を超えて—』（慶應義塾大学出版会、2018年）
- ②大谷栄一・吉永進一・近藤俊太郎（編）『増補改訂 近代仏教スタディーズ—仏教からみたもうひとつの近代—』（法蔵館、2023年）
- ③本願寺史料研究所（編）『増補改訂 本願寺史』第3巻（本願寺出版社、2019年）
- ④本願寺史料研究所（編）『増補改訂 本願寺史』第4巻（本願寺出版社、2025年）
- ⑤浄土真宗本願寺派少年連盟日曜学校沿革史編纂委員会（編）『日曜学校沿革史—本願寺派少年教化の歩み—』（浄土真宗本願寺派少年連盟、2008年）

①は、日本宗教史研究の中で、これまであまり取り上げられてこなかったテーマ・キーワードについて紹介した書である。冒頭の座談会「日本宗教史像の再構築に向けて」では、南山宗教文化研究所発行 Japanese Journal of Religious Studies, Vol.44, No.1 (2017) の特集号「Gendering Religious Practices in Japan」(川橋範子・小林奈央子(編))、川橋範子『妻帯仏教の民俗誌—ジェンダー宗教学からのアプローチ—』(人文書院、2012年)が紹介され、女性・ジェンダーは重要な視点であるにもかかわらず、きちんと扱われてこなかったことが指摘されている。また、小林奈央子「女人禁制」(③エージェント—担い手、202頁)では、現代において「女人禁制」が継承される事例が紹介され、日本の宗教教団における問題性や、ジェンダー視点の重要性が説かれている。

②は、近代社会に影響を与えた「近代仏教」の歴史と周辺を描いた入門書である。第3章「よくわかる近代仏教の世界」に「仏教と女子教育」(第8節「新たな研究領域を探索する」6、170頁)、第4章「近代仏教ナビゲーション」に「女性仏教者—信仰に生きた姿」(第1節「初心者のための人脈相關図」12、233頁)、「近代仏教とジェンダー—女性と家庭」(第2節「初心者のためのブックガイド」17、273頁)が取り上げられている。「近代仏教とジェンダー」において、碧海寿広氏は、「文化や社会によって異なる男女観や性差別の問題について考えるジェンダーの視点は、近代の日本仏教を論じるうえでも欠かせない」(273頁)と述べている。

③は、幕末維新期から昭和初期までの本願寺教団の歴史を概説した書である。第4章「近代布教制度の展開」において、「仏教婦人会・仏教青年会の成立」(337頁)および「日曜学校の成立」(357頁)について記されている。

④は、③の続巻で、1933（昭和8）年頃から2000（平成12）年までの本願寺教団の歴史が概説された書である。第1章「戦時期本願寺のあゆみ」において、「仏教婦人会・仏教青年会・日曜学校」、第5章「布教制度と教化団体」において、「仏教婦人会総連盟」、「仏教青年連盟」、「日曜学校・少年連盟」「スカウト指導者会」「仏教壮年会連盟」の戦後の動向が記されている。

⑤は、本願寺派における仏教少年教化の歴史をまとめた書である。「発刊によせて」（杉山雲来）には、

この「沿革史」には、私ども宗門における「負の遺産」とも言うべき事項についても、それをごまかすことなく点検し、今後の少年教化に誤りなきを期したいという編纂所期の願いから、戦時下における子どもたちあるいは日曜学校を取り巻く状況について、この度の宗令の「依用しない」というのに該当するものが数点掲載されております。……（ii頁）

と記され、戦時下における宗門の少年教化の歩みを批判的に点検し、今後の少年教化のあり方を正していこうとする編集方針が示されている。同書は、「第1部 黎明期（明治～戦時中）」「第2部 日曜学校運動の再出発（戦後～昭和50年頃）」「第3部 新たな歩みへ（昭和五十年頃～）」の3部で構成されており、とりわけ第1部第3章「戦時体制下の日曜学校」では、戦時下における日曜学校の活動実態や少年・少女の教化について明らかにされている。

以下、仏教婦人・女性、仏教青年、仏教少年・少女に関する研究書籍・論文の目録を掲載する。

《仏教婦人・女性（資料・専門書）》

著者・編者	書名	出版社	発行年
千葉乗隆（編）	仏教婦人会百五十年史	仏教婦人会 総連盟	1982
近代女性文化史研究会（編）	婦人雑誌の夜明け	大空社	1989
小山静子	家庭の生成と女性の国民化	勁草書房	1999
中西直樹	日本近代の仏教女子教育	法藏館	2000
中村生雄	肉食妻帯考—日本仏教の発生—	青土社	2011
川橋範子	妻帯仏教の民族誌—ジェンダー宗教学からのアプローチ—	人文書院	2012

岩田真美・中西直樹 (編)	仏教婦人雑誌の創刊（龍谷大学仏教文化研究叢書36 [シリーズ] 近代日本の仏教ジャーナリズム第2巻）	法蔵館	2019
那須英勝・本多彩・ 碧海寿広（編）	現代日本の仏教と女性—文化の越境とジェンダー—（龍谷大学アジア仏教文化研究叢書8）	法蔵館	2019
丹羽宣子	〈僧侶らしさ〉と〈女性らしさ〉の宗教社会学—日蓮宗女性僧侶の事例から—	晃洋書房	2019
岩田真美・中西直樹 (編)	近代真宗「女性教化」資料集成 編集復刻版（全10巻）	三人社	2020
中西直樹	真宗女性教化雑誌の諸相（龍谷大学ジェンダーと宗教研究叢書1 [シリーズ] 近代日本の仏教ジャーナリズム第3巻）	法蔵館	2021
鈴木正宗	女人禁制の人類学—相撲・穢れ・ジェンダー—	法蔵館	2021
鈴木正宗	女人禁制	講談社学術文庫	2022

《仏教婦人・女性（論文ほか）》

著者	論文名	掲載誌・巻号	発行年	頁
千葉乗隆	仏教における女性組織の近代化—婦人教会の設立運動—	龍谷大学論集421	1982	23-44
赤松徹真	近代天皇制下の西本願寺教団と「婦人教会」・「女子教育」論	龍谷史壇99	1992	479-496
石月静恵	近代日本の仏教婦人会について—岐阜県に関する史料紹介を中心に—	桜花学園大学研究紀要2	2000	117-129
佐賀枝夏文	大谷派婦人法話会編『婦徳』総目次	真宗総合研究所紀要20	2001	99-172
福島栄寿	仏教婦人雑誌「家庭」にみる「家庭」と「女性」—「精神主義」のジェンダー—	思想史としての「精神主義」（日本仏教史研究叢書）	2003	170-221
川並宏子	1 ジェンダーから見る宗教—1 仏教—	ジェンダーで学ぶ宗教学	2007	22-36
碧海寿広	近代仏教とジェンダー—女性信徒の内面を読む—	近代仏教のなかの真宗—近角常観と求道者たち—	2014	150-176

		(日本仏教史研究叢書)		
リチャード・ジャフィ、前川健一 (訳)	限りなく在家に近い出家	ブッダの変貌—交錯する近代仏教— (日文研叢書)	2014	366-385
中西直樹	近代仏教婦人会の興起とその歴史的意義	龍谷大学仏教文化研究所紀要56	2017	50-65
中西直樹	女性教誨師の任用とその実情—近代本願寺派に見る女性教化者の系譜 (1)—	仏教史研究58	2020	61-82
中西直樹	女性教化者「女教士」の任用と養成機関の変遷—近代本願寺派に見る女性教化者の系譜 (2)—	龍谷大学論集496	2020	27-56
中西直樹	女性僧侶の登場とその背景—近代本願寺派に見る女性教化者の系譜 (3)—	人間・科学・宗教総合研究センター研究紀要1	2021	55-71
中西直樹	〈真宗連合学会第69回大会記念講演〉近代真宗「女性教化」の諸相 (特別付録展示)の解説	真宗研究68	2024	343-366

《仏教青年 (書籍)》

著者・編者	書名	出版社	発行年
浄土真宗本願寺派保育連盟保育資料500号記念誌編集実行委員会 (編)	保育資料500号のあゆみ 保育資料500号記念誌	浄土真宗本願寺派保育連盟	2000
早稲田大学仏教青年会久遠編集部 (編)	久遠、研究論文集—早稲田大学仏教青年会々誌—	早稲田大学仏教青年会	2010
東京大学仏教青年会 (編)	財団法人東京大学仏教青年会創立九十周年記念誌	東京大学仏教青年会	2010
中西直樹 (編)	仏教植民地布教史資料集成 編集復刻版〈朝鮮編〉全7巻	三人社	2013
中西直樹 (編)	仏教植民地布教史資料集成 編集復刻版〈台湾編〉全6巻	三人社	2016
中西直樹 他 (編)	汎太平洋仏教青年会大会関係資料 (龍谷	不二出版	2016

	大学アジア仏教文化研究叢書1 編集復刻版 資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流 第1期 第1～2巻)		
中西直樹 他(編)	南方仏教圏との交流(龍谷大学アジア仏教文化研究叢書2 編集復刻版 資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流 第2期 第3～5巻)	不二出版	2016
中西直樹 野世英水 大澤広嗣(監修)	仏教植民地布教史資料集成 編集復刻版〈満州・諸地域編〉全8巻	三人社	2016～17
中西直樹 他(編)	全日本仏教青年会連盟機関誌『青年仏徒』(龍谷大学アジア仏教文化研究叢書5 編集復刻版 資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流 第4期 第8～9巻)	不二出版	2018
寺川智祐(編)	広島大学仏教青年会110年の歩み—近代日本精神史の記録—	方丈堂出版	2020

《仏教青年(論文)》

著者	論文名	掲載誌・巻号	発行年	頁
中西直樹	明治前期の仏教少年教会	研究紀要(京都女子大学宗教・文化研究所)7	1994	37-50
渡辺章悟	明治の仏教と仏教青年会運動	仏教文化49	2010	76-109
吉永進一	〈清沢満之研究会〉明治の仏教青年—新しい仏教運動への道—	現代と親鸞26	2013	102-128
大谷栄一	妹尾義郎と新興仏教青年同盟の反戦・平和運動	アジアの社会参加仏教—政教関係の視座から—(現代宗教文化研究叢書005)	2015	73-104
中西直樹	近代仏教青年会の興起とその実情	令知会と明治仏教(龍谷叢書41)	2017	123-160
太田宗志	團藤重光と東京帝国大学仏教青年会—関係史料の紹介と仮目録—	龍谷大学社会科学研究年報48	2018	131-137
三浦周	近代における仏教青年会運動の射程—〈青年〉および〈新仏教〉概念—	仏教文化学会紀要27	2019	327-356
中西直樹	明治・大正期東京の青年仏教者	仏教文化研究論集20	2020	3-39

	一徳風会から東京大学仏教青年会へー			
野世英水	日中戦争下における日・「満」仏教者の交流ー第二回汎太平洋仏教青年会大会への参加をめぐってー	仏教史研究62	2024	63-100

《仏教少年・少女（書籍）》

著者・編者	書名	出版社	発行年
浄土真宗本願寺派少年連盟日曜学校沿革史編纂委員会（編）	日曜学校沿革史一本願寺派少年教化の歩みー	浄土真宗本願寺派少年連盟	2008

《仏教少年・少女（論文）》

著者	論文名	掲載誌・巻号	発行年	頁
中西直樹	近代仏教少年教会の興起とその実情	令知会と明治仏教（龍谷叢書41）	2017	161-193

（小結）

これまでの仏教・真宗関係の「婦人」「女性」「青年」「少年」「少女」に関する研究の蓄積によって、従来、十分に顧みられることの少なかった教化団体の位置づけや、制度・教育・教化実践の実態が、具体的に明らかにされつつある。

今後は、こうした成果の内実をもとに、「戦後問題」検討委員会答申が「教団の今日的課題」の一つとして掲げた、仏教婦人会・仏教青年会などの活動内容の実態把握や、そこで形成された「国体」の護持・奉公を尊ぶ「画一的な人間像」が、敗戦後においても継承されているのか否かの検証、さらには、現代の平和と人権に関わる多様な女性・青年・少年少女の課題について関係機関が協議を深めていくための基盤を整えていくことも可能となってくるのではないかと考えられる。

その意味において、本節で収集・整理した研究資料は、これまで蓄積されてきた研究成果の内実を一つひとつ確認・共有していくための重要な土台として位置づけられるだろう。

2. 仏教および真宗の人間観に関する研究

2.1. 仏教および真宗の人間観に関する学術雑誌・論文集の発刊

仏教および真宗の人間観に関する研究は、これまで継続的に行われており、「人間観」を主題とする学術雑誌や論文集などを通して、多様な成果が蓄積されてきた。

たとえば、1960年代には、日本仏教学会において「仏教の人間観」という課題が設定され、学会誌『日本仏教学会年報』第33号（1968年）には、初期仏教や大乘仏教の人間観をはじめ、中国の懷感や臨濟義玄、日本の聖徳太子・最澄・空海・源信・瑩山紹瑾・法然・親鸞・証空・日蓮など、東アジアの学僧の人間観について論じた計23本の論文が掲載されている。

また、続く1970年代には、三枝充恵・中村元・長尾雅人（編）『講座仏教思想』第4巻（理想社、1975年）において「人間論 心理学」というテーマが掲げられ、仏教の人間観に関する論攷として、中村元「仏教における人間論」、塩入良道「シナ仏教における人間論」、結城令閑「浄土教の人間論」、柳田聖山「禅における人間論の形成」など、インド・中国・日本における仏教の人間観に関する論攷4編が収録されている。また、1977年～81年にかけて刊行された『講座親鸞の思想』シリーズ（教育新潮社、全10巻）では、第1巻「親鸞の思想からみた人間と宗教」（1977年）、第3巻「如来（アミダ）の救いとその対象」（1980年）、第4巻「如来（アミダ）に救われた人間」（1977年）などにおいて、真宗の人間観が多角的に論じられている。

さらに1980年代には、インド・中国・日本の仏教における人間観の特質を明らかにすることを企図した前田専学（編）『東洋における人間観—インド思想と仏教を中心として—』（東京大学出版会、1987年）が刊行され、1990年代には、東北大学印度学講座創設六十五周年を記念して編まれた『インド思想における人間観—東北大学印度学講座六十五周年記念論集—』（平楽寺書店、1991年）が出版されている。

2000年代に入ると、大正大学総合仏教研究所の仏教的人間学研究会から『仏教の人間観』（大正大学総合仏教研究所叢書17、北樹出版、2007年）が刊行され、西洋哲学において人間の理性を中心に展開されてきた「人間学」に「仏教的」視点を融合させた「仏教的人間学」（ダンマに基づいた最上の理性の追求）という視座が提示された。さらに2010年代には、日本仏教学会において再び「人間」を主題

とするテーマが2年続けて設定され、『日本仏教学会年報』第82号（2017年）では、「人間とは何か―人間定義の新次元へ（一）―仏教における『人間』定義の諸相―」が、同第83号（2018年）では、「人間とは何か―人間定義の新次元へ（二）―仏教から見る『人間』定義の新次元―」がそれぞれテーマとして掲げられている。

2.2. 仏教の人間観に関する研究

ここでは、戦後50（1995）年以降の仏教の人間観に関する主要な研究を取り上げ、その内容について概観する。

- ①武邑尚邦「〈真宗連合学会第44回大会記念講演〉 仏教の人間観―衆生論考―」（『真宗研究』42、1998年）
- ②安藤光慈・小堀聡・師茂樹・松尾宣昭「〈龍谷教学会議第53回大会シンポジウム〉 人間とはなにか―科学者と仏教者の対話を通して―」（『龍谷教学』53、2018年）
- ③平岡聡「〈第30回真宗教学学会講演〉 仏教の人間観―〈いのち〉から考える―」（『真宗教学研究』44、2023年）

①は、真宗連合学会第44回大会の武邑尚邦氏による記念講演「仏教の人間観―衆生論考―」の講演録である。本講演では、個々の人間は自らの人生に責任をもって生きるべきであるという「責任」を担いつつも、縁起を自覚することによって、さまざまな縁によって生かされているという「感謝」の念をもって生きるべきであるという人間観が提示されている。またそれと同時に、その責任と感謝に根差す生き方をつねに顧みながら、自身の生き方を問い直す「内省」に支えられた人間観を形成していくことの重要性が論じられている。

②は、龍谷教学会議第53回大会におけるシンポジウム「人間とはなにか―科学者と仏教者の対話を通して―」の記録である。本シンポジウムでは、浄土真宗本願寺派司教の安藤光慈氏の司会のもと、科学・仏教・浄土真宗の各立場から小堀聡氏・師茂樹氏・松尾宣昭氏が登壇し、科学者と仏教者の対話を通して、「人間とはなにか」という点について議論されている。このうち、師氏の発題「仏教教理から見た人工知能と生命」では、仏教教理における生命の定義を手がかりに、人工知能を有情（生命体）とみなしうるのか、また、生命体のように見える人工物があつたときに、我々にそれが生命体かどうか判断できるのかという点について論じられて

いる。なお、師氏はその後、「衆生としての人間—仏教における人間中心主義批判的側面—」（『日本仏教学会年報』86、2022年）という論文を公表しており、ここでは仏教の衆生観を踏まえて、人工知能や生命科学をめぐる議論で前提とされがちな「人間中心主義」を問い直す視点が提示されている。

③は、第30回真宗教学学会の平岡聡氏による講演「仏教の人間観—〈いのち〉から考える—」の講演録である。本講演では、日本仏教の生命観に依拠しつつ、「いのち」の範疇を人間に限らず動植物やモノにまで広げて捉え直し、人間による「いのち」の軽視が顕在化する現代社会を前に、仏教者としてその現実を真摯に受け止めながら、「いのち」という視点から人間自身の在り方を見つめ直すことの必要性を論じている。

2.3. 真宗の人間観に関する研究

ここでは、戦後50（1995）年以降の真宗の人間観に関する主要な研究を取り上げ、その内容について概観する。

- ④宇野順治 他「〈宗学院共同研究〉浄土真宗の人間観」（『宗学院論集』74、2002年）
- ⑤普賢晃壽「〈真宗連合学会第56回大会記念講演〉真宗者の人間像—教学背景を中心として—」（『真宗研究』54、2010年）
- ⑥内藤知康「〈龍谷教学会議第53回大会記念講演〉浄土真宗の人間観」（『龍谷教学』53、2018年）

④は、1998（平成10）年から2000（平成12）年にかけて進められた浄土真宗本願寺派宗学院の共同研究「浄土真宗の人間観」の成果物である。まえがきによれば、この共同研究は、宗学院に所属する約30名の研究生・研究員が三班に分かれて「性得の機」「受法の機」「所被の機」など、「機」を問題としたテーマを掲げ、さらに各班の中で新たな問題を分担・発表して討議したものであるとされる。ここでは、具体的なテーマとして、「差別問題と業論—性得の機—」「生命観と仏性論—受法の機—」「現代人と悪人正機〈悪人正機の現代的意義〉—所被の機—」などが掲げられている。

⑤は、真宗連合学会第56回大会の普賢晃壽氏による記念講演「真宗者の人間像—教学背景を中心として—」の講演録である。本講演では、親鸞が「真仏弟子」「難化の三機」として示した真宗者の人間像の教学背景に焦点を当て、明恵による

法然批判や、最澄・徳一の三一権実論争が比叡山に及ぼした影響など、当時の鎌倉旧仏教の動向との関係からその意義について論じられている。

⑥は、龍谷教学会議第53回大会の内藤知康氏による記念講演「浄土真宗の人間観」の講演録である。本講演では、「成仏道を歩む者として人間をどのように見ていくのか」という点を浄土真宗の人間観の基本に据えた上で、「成仏道を歩む者としての人間」には、迷いから悟りへ進むのに役立つ能力は何一つ持っていない存在（罪悪深重・地獄一定の人間）としての側面と、阿弥陀仏のはたらきによって成仏が決定した存在（正定聚・弥勒と同じ・諸仏と等し）としての側面とがあることが論じられている。さらに本講演では、「成仏道を歩む者」は日常生活をどのように営むべきかという問題についても言及されている。なお、龍谷大学の真宗学科で開講された「真宗学概論」の講義を基礎として編まれた「基礎から学ぶ浄土真宗」シリーズ（全3巻）の第1巻『阿弥陀仏と浄土—親鸞が歩んだ道—』（法蔵館、2023年）の第6章「阿弥陀仏に救われる人間—親鸞の人間観—」や、第2巻『信心と利益—救いのよろこび—』（法蔵館、2024年）の第3章「救われがたき者の救い」、第6章「念仏者の生活」などにも、親鸞の人間観に関する内容が論じられている。

以下、戦後50（1995）年以降の仏教および真宗の人間観に関する研究書籍・論文の目録を掲載する。

《仏教および真宗の人間観（書籍）》

著者・編者	書名	出版社	発行年
石川力山（編）	道元の人間観（道元思想大系20）	同朋舎	1995
安田理深	仏教の人間像—仏弟子—（安田理深講義集3）	彌生書房	1999
斎藤昭俊教授古稀記念論文集刊行会（編）	仏教教育・人間の研究 斎藤昭俊教授古稀記念論文集	こびあん書房	2000
大正大学総合仏教研究所輪廻思想研究会（編）	輪廻の世界（大正大学総合仏教研究所叢書9）	青史出版	2001
村瀬忠雄	共生人間論序説—仏教は世界を救えるか—	風媒社	2004
西光義敏	育ち合う人間関係—真宗とカウンセリングの出会いと交流—	本願寺出版社	2005
三枝充恵	仏教の宗教観・人間観（三枝充恵著作集6）	法蔵館	2005
大正大学総合仏教研究所「仏教的人間学」研	仏教の人間観（大正大学総合仏教研究所叢書17）	北樹出版	2007

研究会（編）			
田中教照（編）	仏教最前線の課題（武蔵野大学シリーズ6）	武蔵野大学出版会	2009
聖心女子大学キリスト教文化研究所（編）	新しい人間像を求めて—人間存在の実像と虚像のはざまで—	春秋社	2009
加藤守孝	真宗保育の名のもとで育てたい子ども・人間—これからの保育・教育のめざす子ども—（真宗保育ブックレットシリーズ6）	大谷保育協会	2010
大谷大学真宗総合研究所（編）	親鸞像の再構築 親鸞聖人七百五十回御遠忌記念論集（下巻）	筑摩書房	2011
ケネス・タナカ（編）	智慧の潮—親鸞の智慧・主体性・社会性：Shinshu theologyから見えてくる新しい水平線—（武蔵野大学シリーズ10）	武蔵野大学出版	2017
植木雅俊	差別の超克—原始仏教と法華経の人間観—（講談社学術文庫2530）	講談社	2018
森覚（編）	メディアのなかの仏教—近現代の仏教の人間像—	勉強出版	2020
石田慶和	真宗入門—宗教の人間の可能性—（石田慶和集3）	本願寺出版社	2020
木越康	仏教と人間教育そして真宗（真宗教育シリーズ7）	東本願寺出版	2021
川村覚昭	近代教育学と浄土真宗—人間・教育・宗教の根本問題を問う浄土真宗的教育人間学—	法蔵館	2024

《仏教の人間観（論文）》

著者	論文名	掲載誌・巻号	発行年	頁
朝山幸彦	原始仏教と D.Hume の思想比較—人間観を中心に—	哲学倫理学研究 2	1996	23-31
村上真完	初期の仏教における分析的思考と人間存在	仏教論叢40	1996	3-12
ひろさちや	仏教の人間観・生命観—仏教の栄光のために(7)—	仏教42	1998	156-166
武邑尚邦	〈真宗連合学会第44回大会記念講演〉 仏教の人間観—衆生論考—	真宗研究42	1998	135-149
藤本浄彦	仏教の人間観と人権—特に近代	佛教学総合研究所紀	1999	79-94

	化の問題への関心からの私考—	要 別冊 2 (現代社会における人間観の探求—国際化と人権の諸問題を通して—)		
平岸延崇	仏教における人間観の考察	教化研修44	2000	167-172
菅野覚明	仏教の人間観をめぐる	聖学院大学総合研究所紀要22	2001	167-185
稲津稔	経・論にみる人間観Ⅰ—阿含経・相応部教典関係—	駒沢大学仏教学部論集33	2002	77-90
藤近恵市	『八千頌般若経』における人間観	大正大学総合仏教研究所年報25	2003	364-365
稲津稔	経・論にみる人間観Ⅱ—『俱舍論』界品・根品にみる人間観—	駒沢大学大学院仏教学研究会年報36	2003	13-32
松岡幹夫	仏教の人間観—創価思想の視点から—	東洋学術研究153	2004	49-64
稲津稔	経・論にみる人間観の変遷—「阿含経・相応部経典」, 『俱舍論』, 『大智度論』について—	印度学仏教学研究105	2004	72-74
田中典彦	初期仏教における人間と自然	佛教大学総合研究所紀要11 別冊	2005	15-32
稲津稔	経・論にみる人間観Ⅲ	駒沢大学大学院仏教学研究会年報38	2005	1-15
川田洋一	人間・地球・宇宙—大乘仏教の視点から—	東洋学術研究45-1	2006	138-153
玉井威	仏教の人間観(1)—仏教福祉構築にむけて—	同朋福祉12	2006	155-162
稲津稔	経・論にみる人間観Ⅳ—唯識三十頌の識について—	駒沢大学大学院仏教学研究会年報39	2006	1-12
横山全雄	人間という存在—五蓋・十二処など—	大法輪74-9	2007	77-79
神居文彰	日本仏教における人間観	鳳翔学叢3	2007	139-158
岩瀬真寿美	大乘仏教の人間観における苦と覚の関連性	日本仏教教育学研究19	2011	71-92
岩瀬真寿美	大乘仏教における智慧の獲得としての人間形成理論	名古屋産業大学論集21	2013	1-9
竹村牧男	〈基調講演〉『大乘起信論』の人	東アジア仏教学術論集	2013	1-16

	人間観	1		
橋川智昭	中国仏性思想と人間観	奥田聖應先生頌寿記念 インド学仏教論集	2014	919-931
吉田哲	修道論から見た仏教の人間観	日本仏教学会年報82	2017	24-43
佐藤智岳	一切智者論から見た「人間」	日本仏教学会年報82	2017	1-23
根本裕史	ツォンカパの人間観	日本仏教学会年報82	2017	44-61
横山剛	アビダルマの法体系の基礎をなす 仏教的な人間理解—存在の分析 における五蘊の意義をめぐって—	日本仏教学会年報82	2017	62-87
福田琢	『沙門果経』阿闍世説話に見る 初期仏教の人間観	日本仏教学会年報82	2017	88-116
三浦健一	仏教における「人間主義」に関する 研究—原始仏典に見られる人間観—	研究東洋7	2017	24-33
三浦健一	仏教における「人間主義」に関する 研究—大乘仏教に見られる人間観—	研究東洋8	2018	14-26
安藤光慈・ 小堀聡・師 茂樹・松尾 宣昭	〈龍谷教学会議第53回大会シン ポジウム〉人間とはなにか—科 学者と仏教者の対話を通して—	龍谷教学53	2018	198-273
三浦健一	仏教における「人間主義」に関する 研究—法華経に見られる人間観—	研究東洋9	2019	19-31
師茂樹	衆生としての人間—仏教における 人間中心主義批判的側面—	日本仏教学会年報86	2022	243-258
平岡聡	〈第30回真宗教学学会講演会〉 仏教の人間観—〈いのち〉から 考える—	真宗教学研究44	2023	52-67

《浄土教および真宗の人間観（論文）》

著者	論文名	掲載誌・巻号	発行年	頁
三木彰円	親鸞における人間観	大谷学報74-4	1995	60-61
大城邦義	仏教教育の基底—親鸞の人間観—	日本仏教教育学研究 4	1996	136-141

堀祐彰	親鸞の人間観について	宗教研究70-4	1997	226-227
普賢晃壽	真宗者の人間像	親鸞教学論叢 村上速水先生喜寿記念	1997	255-275
市川幸仏	親鸞聖人の人間観について	宗学院論集70	1998	15-37
村上學	親鸞—妻惠信尼から見た像—	国文学—解釈と鑑賞—64-5	1999	135-139
黒崎征佑	学校がめざす人間像と真宗のそれ	若越郷土研究44-5	1999	14-16
武邑尚邦	〈共同研究特別講義〉浄土真宗の人間観	宗学院論集72	2000	1-10
吾勝常行	親鸞と人間性心理学	印度学仏教学研究96	2000	160-164
川村覚昭	人間形成と真宗の社会倫理	教学研究所紀要8	2000	17-34
宇野順治 他	〈宗学院共同研究〉浄土真宗の人間観	宗学院論集74	2002	1-79
松山智道	親鸞聖人の教化観—人間教育の本来性を求めて—	東海仏教47	2002	15-27
鷲見定信・ 藤本浄彦・ 柴田良稔・ 奈良康明・ 袖山榮眞	〈平成13年度浄土宗総合学術大会シンポジウム〉浄土教の人間観—愚者の自覚—	仏教論叢46	2002	23-89
吾勝常行	親鸞の人間観と対人援助	真宗学107	2003	125-129
増田一実	親鸞にみる人間観の考察—親鸞における罪悪の問題を中心として—	龍谷大学大学院文学研究科紀要25	2003	186-189
山崎龍明	真宗者の家族論—仏教、人間、家族—	日本仏教会学会年報69	2003	91-104
藤原正寿	現代における真宗の人間像	現代と親鸞3	2003	2-17
浅井成海・ 吾勝常行	真宗伝道学の研究—親鸞の人間観と対人援助—	仏教文化研究所紀要42	2003	42
堀祐彰	覚如の人間観について	印度学仏教学研究103	2003	74-77
Pham Thi Thu Giang	近世浄土真宗と肉食妻帯論—その人間観および仏教観—	人間文化研究科年報20	2004	412-402
菊藤明道	親鸞の存在論的人間観と社会的人間観	日本浄土教の形成と展開103	2004	385-404
山崎龍明	親鸞における人間の研究（一）—	武蔵野大学仏教文化	2004	3-22

	親鸞の煩惱論—	研究所紀要20		
Pham Thi Thu Giang	日本仏教と浄土真宗の妻帯問題に関する覚書—その人間観と仏教観—	日本史の方法3	2006	102-111
Pham Thi Thu Giang	〈センター主催講演要旨〉浄土真宗における人間観・仏教観	比較日本学研究センター研究年報2	2006	121-122
本多弘之	人間像と如来回向	現代と親鸞10	2006	235-247
肖越	「無量寿経」における人間観（一）	日本仏教教育学研究15	2007	83-88
山崎龍明	親鸞における人間の研究（二）—親鸞における煩惱論—	武蔵野大学仏教文化研究所紀要23	2007	1-20
松本デビッド	浄土真宗における人間性と救済—西洋現代真宗学の間人理解—	龍谷大学大学院文学研究科紀要29	2007	159-181
本多弘之	本願に開かれた人間存在の場	現代と親鸞14	2008	226-234
増田翼	東井義雄の人間観・教育観にみられる仏教思想	日本仏教教育学研究16	2008	141-145
山崎龍明	親鸞における人間の研究（三）—親鸞の煩惱論—	武蔵野大学仏教文化研究所紀要24	2008	37-64
本多弘之	〈第5回親鸞仏教センターのつどい・講演〉親鸞の人間像と時間	現代と親鸞15	2008	128-142
川村覚昭	親鸞における三心釈と心の教育—教育人間学的考察—	哲学論集56	2009	1-18
肖越	「無量寿経」の人間観（二）—『無量清浄平等覚経』を中心として—	日本仏教教育学研究17	2009	56-60
藤能成	真宗と人間性心理学の接点	宗教研究82-4	2009	118-119
普賢晃壽	〈真宗連合学会第56回大会記念講演〉真宗者の人間像—教学背景を中心として—	真宗研究54	2010	252-274
吾勝常行	真宗と人間性心理学の接点とその課題	印度学仏教学研究120	2010	254-255
深川宣暢	伝道学としての真宗人間学—真宗における人間の存在と当為—	真宗研究55	2011	87-104
斎藤真希	法然と親鸞の人間観の相違	比較思想研究39	2012	86-92
金見倫吾	親鸞の人間観—特に「如来とひとし」について（上）—	仏教史研究49	2012	49-78
金見倫吾	親鸞の人間観—特に「如来とひと	仏教史研究51	2013	59-79

	しについて (下) 一			
黒田浩明	真宗の信仰の人間像—真仏弟子釈の文証から	真宗研究58	2014	30-47
大澤絢子	大正期親鸞文学における「人間親鸞」像の変容—倉田百三から石丸梧平へ—	現代と親鸞29	2014	47-75
新井俊一	人間と阿弥陀仏の時間・空間における関わり—親鸞浄土教における人間観—	日本仏教学会年報82	2016	1-12
伊藤顕慈	真宗相承における人間観	浄土真宗総合研究10	2016	188-190
長松真見	親鸞の人間観—『歎異抄』第二条を通して—	高田学報104	2016	57-69
高田文英	仏教・真宗の生命観—人権・平和論への一視座—	日本仏教学会年報83	2017	70-8
三浦健一	仏教における「人間主義」に関する研究—原始仏典に見られる人間観—	研究東洋7	2017	24-33
内藤知康	〈龍谷教学会議第53回大会記念講演〉浄土真宗の人間観	龍谷教学53	2018	149-197
曾和義宏	浄土教における仏と人間	日本仏教学会年報83	2018	86-106
山崎龍明	親鸞浄土教における人間と浄土—「浄土」と地球環境—	日本仏教学会年報83	2018	43-65
鍋島直樹	親鸞聖人の人間観—仏の大悲にいだかれて—	真宗教学研究42	2021	1-13
一楽真	〈2021年度 春季公開講演会講演録〉念仏は人間に何を与えるのか—親鸞を通して考える—	大谷学報101-1	2021	81-109
長谷正當	地上に住むものとしての人間—正定聚に住するということ—	真宗教学研究43	2022	81-93

《仏教的人間学・現代仏教・心理学（論文）》

著者	論文名	掲載誌・巻号	発行年	頁
工藤英勝	仏教教学的人間学	教化研修39	1996	166-170
輪廻思想研	人間学序説—輪廻思想	大正大学総合仏教研究所年報19	1997	245-248

研究会	を中心にして―				
輪廻思想研究会	人間学序説 [II] ―輪廻思想を中心にして―	大正大学総合仏教研究所年報20	1998	120-139	
仏教の人間学研究会	仏教の人間学	大正大学総合仏教研究所年報23	2001	101-119	
藤近恵市	仏教の人間学における研究の方向性	大正大学総合仏教研究所年報23	2001	101-104	
白木悦生	仏教の人間学における「仏教的」と「人間学」の意味をめぐって―藤田健治の「哲学の人間学」を例として―	大正大学総合仏教研究所年報23	2001	107-109	
舘野正生	仏教の人間学の研究方法と方向	大正大学総合仏教研究所年報23	2001	110-112	
仏教の人間学研究会	仏教の人間学 (2)	大正大学総合仏教研究所年報24	2002	133-161	
藤近恵市	仏教の人間学研究会	大正大学総合仏教研究所年報24	2002	288-289	
高橋裕美	仏教の人間学について	大正大学総合仏教研究所年報24	2002	152-155	
藤近恵市	仏教の人間学と智慧	大正大学総合仏教研究所年報24	2002	133-145	
久保紀生	佐藤賢順と仏教的人間学 (承前)	大正大学総合仏教研究所年報24	2002	145-147	
仏教の人間学研究会	仏教の人間学 (3)	大正大学総合仏教研究所年報25	2003	99-129	
藤近恵市	仏教の人間学研究会	大正大学総合仏教研究所年報25	2003	340-341	
藤近恵市	仏教の人間学の思想的源流	大正大学総合仏教研究所年報25	2003	99-105	
久保紀生	佐藤賢順と仏教的人間学 (二) ―フォイエルバッハからマックス・シェーラーへ―	大正大学総合仏教研究所年報25	2003	106-110	
久保紀生	佐藤賢順と仏教的人間学	仏教文化学会紀要14	2005	127-144	
川村覚昭	教育人間学的視点から見た浄土教の現代的問題	真宗総合研究所研究紀要31	2014	89-97	
宮川真一	現代世界における文明	通信教育部論集20	2017	71-86	

	論的パラダイム・シフト—「仏教的人間主義」の可能性—			
一色大悟	近代日本における縁起説論争にみる人間観—説一切有部の三世兩重解釈をめぐる—	日本仏教学会年報83	2018	173-195

(小結)

以上の整理から、仏教および真宗の人間観に関する研究は、戦後を通じて継続的に蓄積され、近年は学術雑誌・論文集における特集や共同研究の成果として公表されてきたことが確認できる。とりわけ、1960年代に日本仏教学会が「仏教の人間観」というテーマを設定して以来、インド・中国・日本の横断的な概観が進められ、2000年代以降は「仏教の人間学」といった枠組みも提示されるなど、人間理解をめぐる議論は多面的に深化してきた。

本節で収集・整理した研究資料は、こうした研究史の見通しを与えるとともに、主要な論点の把握を可能にし、今後の検討を進めるための重要な基盤となるだろう。とりわけ、縁起の自覚にもとづく責任・感謝・内省を軸に人間の生き方を捉え直す視点や「人間中心主義」を前提とする発想そのものを問い返す視点、あるいは「いのち」という視点から人間自身の在り方を考え直す視点、さらには「成仏道を歩む者」として念仏者が日常生活をいかに営むべきかという実践的課題は、本研究の冒頭に掲げた平和貢献策④「人間像の点検～互いの〈いのち〉を尊重し、支え合う～」が掲げる「仏教や真宗の教えに基づいて人間とは何者であるかを理解し、ともに「いのち」を尊重できる社会を実現する」という目標に取り組む上で、有効な手がかりを与えるものといえよう。

今後は、こうした研究成果を踏まえつつ、互いの「いのち」を尊重することのできる社会の実現に向け、仏教および真宗の人間観がいかなる視座を提示しうるのかを、資料に基づき継続的に検討していくことが求められる。